



## 認知症カフェ運営担当者 情報交換会を開催しました

山形県では現在すべての市町村に「認知症カフェ」が設置されています。認知症の方やご家族が安心して過ごせる場所として運営されていますが、今後も継続して運営していくために、運営者等を対象に県内4か所で8月に情報交換会を開催しました。カフェの運営者や市町村職員、地域包括支援センター職員の皆様に多数ご参加いただき、ありがとうございました。カフェを運営する上での悩みや想いを共有し、「うちではこうしています！」「こうしたらどうでしょう？」といったアドバイスや意見が出され、充実した情報交換会になりました。情報交換会での内容を一部ご紹介します。

認知症カフェを運営している上での課題	実施している工夫・課題に対する意見
・参加者が少ない、来ない ・当事者の参加が少ない ・「認知症カフェ」なのか「サロン」なのか、あいまい	・各地域・区に出向いての開催 ・家族が参加できる時間帯の開催(ナイトカフェ) ・ケアマネージャーからつないでもらう
・カフェの存在をもっと地域に広げたい(周知方法)	・統一ののぼり旗で、開催していることをアピール
・認知症カフェまでの交通手段	・中心市街地での開催(出張カフェ)
・カフェ運営の協力者を得るには	・キャラバンメイトの組織化 ・認知症サポーター養成講座の受講後に、その場で協力者の登録をする ・元気な高齢者にサポーターになってもらう
・参加者が楽しめる内容の企画 ・イベントだと多く集まるが、勉強会になると少なくなる	・お寺でカフェ(宗教活動はしない) ・図書館司書から本や図書館の魅力を紹介してもらう ・エンディングノート作成の講座

悩める課題はいろいろありますが、地域にある資源(人・物・場所)を工夫して活用しているカフェもあります。参加者は少なくても、地域に「集いの場」があるということが大切です。参考にしていただけたらと思います。

### さくらんぼカフェより

さくらんぼカフェから旬の話題をお届けします！

#### 「当事者(特に若年性認知症の方とその家族)の社会活動」から見えるもの

##### カフェ利用者の自立→成長→本人回帰

さくらんぼカフェをオープンして5年目となっています。その間認知症の方やご家族の方が多く足を運んでくれました。

そして、その方々の発することばや思いをつづった文字は私たちに多くの示唆を与えてくれます。今、その当事者の方々がカフェを利用するのみならず、カフェの利用を契機とした社会活動に関わる機会がここ数年で増えています。

例えば、認知症キャラバン・メイトフォローアップ研修や認知症サポーターで組織する団体での勉強会での講師を担ったり、民生児童委員の前で若年性認知症の妻と暮らす家族の立場での覚悟を語ったり、大学生の研究の対象として率直な思いを伝えたりしながら、自分たちの暮らしを理解していただくことから、自らがその暮らしの充実に向けた社会の変容を促すような活動を始めています。

もし、カフェがなかったと考えると、そのような活動に取り組む当事者はまだまだ、現れていなかったかもしれません。続けることに思い悩むカフェもあるかもしれませんが、当事者の暮らしが少しでも安心したものになるきっかけと、仮に認知症になったとしても、自分は自分であることを前提とした社会との窓口の役割を持ち続けることには大きな意義があると考えます。そして、カフェの場と過ごす時間は、ゆっくりではありますが、あらゆる参加者の自分取り戻しに大きな役割も果たしているようにも思います。

## 認知症になっても住みよい町を目指して

遊佐町地域包括支援センターゆうすい

齋藤まき 社会福祉士

遊佐町の認知症カフェ‘ゆうすいカフェ’は、社会福祉法人遊佐厚生会の地域貢献の一環として運営しています。

‘ゆうすいカフェ’は、認知症の方やご家族、地域の方など、どなたでも参加できるカフェです。月1回の開催で、キャラバンメイトの中から1日マスターを決め、認知症サポーターとなった方からもボランティアとして協力を頂いています。認知症や予防に関する情報提供を行い、また、交流の場としても年数回楽しいイベントを企画しています。

昨年からは出張カフェと銘打って、交通手段のない人でも気軽に参加できるように地域の集会所に向いてのカフェも開催しています。何でも話せる息抜き場として、情報交換の場として、美味しい珈琲とともにゆったりとした時間を過ごして頂きたく、町内の湧水で挽きたて淹れたての珈琲を提供しています。年間11回の開催で延べ160～180名の参加者を得ておりますが、課題として、当事者(家族)の参加が少なく、当事者が参加しやすい場の雰囲気作りを心がけていきたいと思っております。

認知症になっても地域でその人らしく生活ができるように、カフェを通してつながりの輪を広げていきたいと思っております



## インフォメーション

ホットな話題をお届けします！

2019世界アルツハイマーデー記念事業

## 県内ランドマークのライトアップが行なわれます

今年も、世界アルツハイマーデー(9月21日)を迎えるに当たり、山形県内でも各種の認知症に関する事業が各地で計画されています。

公益社団法人認知症の人と家族の会山形県支部では、以下の建造物を管理している機関・団体のご理解とご協力の下、今年も夜間のライトアップを実施します。秋の夜長、地域の方はぜひ、眺めていただき『認知症の理解』について思いをはせてみませんか。

お近くにお出かけの際はぜひご覧になってください。

1. 山形大学米沢キャンパス  
(重要文化財旧米沢高等工業学校本館記念館)

9月1日(日)～9月30日(月)

2. 山形県郷土館「文翔館」(山形市旅籠町)

9月18日(水)～9月25日(水)

3. 上山城(上山市元城内)

9月18日(水)～9月25日(水)



## カフェ情報

遊佐町「ふっくらカフェ」のご紹介

11月9日(土) 開催 13:00～16:30

認知症の人本人やその家族が気兼ねなく訪れられる場所として、認知症の理解や体操などを通して知識を深め、介護に携わる人との交流もできます。

料金:300円(お菓子と飲み物提供)

場所:デイサービスふっくら

連絡先電話:0234-77-2313

担当:有限会社キャットハンドサービス

柏倉(遊佐町十里塚193-34)



発行元:山形県認知症相談・交流拠点さくらんぼカフェ 山形県認知症コールセンター(山形市 県小白川庁舎内)

電話・来所相談・カフェオープン月曜～金曜日 昼12時～午後4時

TEL 023-687-0387 FAX 023-687-0397 皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。